

I 実践

1 研究主題

思いやりの心を持ち、互いに認め合う児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「豊かな心を持ち、自ら学び考え、たくましく生きる児童の育成」であり、それを受けて「やる気（すすんで学習する子）、やさしさ（明るく思いやりのある子）、やり抜く（健康でがんばる子）」を目指す児童像としている。このような児童を育成するには、安心して学習や活動に取り組める環境作りが欠かせない。何よりも良好な人間関係が大切である。児童と教師、児童同士が互いの立場を思いやり、認め合い、それを豊かに伝え合うことによって良好な環境が整い、居心地のよい雰囲気醸成されると考えられる。そこで、児童一人一人に思いやりの心を育て互いを尊重し合う雰囲気を作り、認め合う場を効果的に設定すれば、良好な人間関係を築くことができると考え、本主題を設定した。

ただ、今年度は感染症予防のため例年行っている活動や行事が見送られ、かなり限られた内容であったり、代替の活動であったり、試行錯誤の実践であった。

(2) 研究の内容

- ア 相手の立場を思いやり、伝え合うための活動の実践
- イ 互いに認め合い、伝え合うための活動の実践

2 実践内容

(1) 相手の立場を思いやり、伝え合うための活動の実践

ア 創立記念週間の実施

「滑川小のお誕生日を祝おう」と全校に呼びかけ、創立記念日である11月1日の週を創立記念週間として実施した。運営委員会の児童が話し合い、学校が喜ぶこととして、

みんなが「笑顔」で、「挨拶」のあふれる、「安心」できる学校

の3つを掲げた。それらを全校児童の努力目標として資料①のワークシートを作り、1週間振り返りを行うことにより意識の向上を図った。内容として「①大きな声で挨拶 ②友達にふわふわ言葉を使った ③友達のいいところを見つけた」など、友達を思いやったり認めたりできたかを問うものと、「あいさつじゃんけん」「滑川小クイズ」の結果など楽しく取り組めるものも織り交ぜて点数化し、意欲的に取り組めるように工夫した。運営委員会は、本実践の中心となり、各クラスを回ってのあいさつじゃんけん、滑川小クイズ、滑川小のいいところのアンケート調査と発表などを行った。

イ いじめゼロ集会

いじめについて全校で共通理解を図ることによって、互いを認め合い、いじめを許さない雰囲気を醸成するために運営委員会を中心として企画した。感染症予防の対策として低・中・高学年ブロックごとに1時間ずつ設定して行った。主な内容は、各学級のいじめゼロスローガンの発表と運営委員会によるいじめゼロクイズである。

スローガンは、集会の事前準備として学級ごとにいじめをなくすためのスローガンを話し合うことによって、意識の向上を図るためのものである。当日は、各学級の代表が作成したスローガンとその理由を発表した。各学級とも発達段階に応じた内容で、普段の教室での人権に関する指導が垣間見える作品となり、表現することの面白さが感じられた。(資料②)

いじめゼロクイズは、学校にありがちないじめの場面を寸劇で表現し「自分だったらどうするか」をクイズ形式で問いかけるものである。運営委員会の児童が話し合い、いじめの場面を2種類挙げて寸劇の構成を考えた。1つ目は「テスト返し」(資料③)、2つ目は



【資料① ワークシート】



【資料② スローガン発表】



【資料③ いじめゼロクイズ】

目は「プロレスごっこ」(資料④)である。それぞれの場面では、いじめられる立場の人に対しての関わり方や声のかけ方を4パターン演じ、「自分だったら〇番」と考えさせ、起立することでクイズに答えるようにした。一番よい関わり方を解説する中で、チクチク言葉を使わないことや見ているだけの人も加害者であることなどを強調することにより、今後の行動の仕方について全校児童で共通理解を図ることができた。

集会後には、「いじめゼロのちかい」を個別に表現させ、いじめゼロ集会で学んだことを一人一人の人権意識の向上につなげるようにした。



【資料④ いじめゼロクイズ】

## (2) 互いに認め合い、伝え合うための活動の実践

### ア 道徳コーナー

校内で統一して道徳関連の掲示を行っている。その中で学習した教材についての考えを表現したものや友達へのあったかメッセージを貼る場所を学級ごとに工夫している。互いに言葉で伝え合う場を常掲し継続して行うことで、学級に温かい雰囲気や心の居場所を作ることにも努めている。



【資料⑤ 道徳コーナー】

### イ あいさつ運動

学校での1日を楽しく安心してスタートするには、元気な挨拶が欠かせない。あいさつ運動は、学期に1回運営委員会が企画している。1学期は、運営委員会が中心となり校内の各所に立ったり、各教室や廊下を回ったりして挨拶を呼びかけた。2学期は、委員会ごとに日替わりで昇降口に立って挨拶を行った。いずれも日を重ねるにつれて元気な声が返されるようになり、挨拶の大切さを実感できる取り組みとなっている。



【資料⑥ あいさつ運動】

## II 成果と課題

### 1 成果

創立記念週間といじめゼロ集会で、期間を設けて集中的に取り組むことにより、人権についての理解を深めることができた。また、スローガンやちかいなど、言葉で表現して人権コーナーに掲示することにより、全校でいじめについての共通理解を図ることができた。

### 2 課題

道徳コーナーのあったかメッセージや「チクチク言葉とふわふわ言葉」の取り組み等、継続していくことが難しいことがある。定期的に振り返りの場を設けるなどメリハリを付けて行えるとよい。

## III 人権コーナーについて

いじめゼロ集会で発表した各学級のスローガンと、一人一人が表現した「いじめゼロへのちかい」を昇降口に掲示した。全校児童が朝登校して必ず目に入る場所に常掲することによって、「みんなが笑顔で、挨拶のあふれる、安心できる学校」であることの確認ができるようにしている。

